

平和記念式典 開式

(広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式)

8月6日、派遣団は「平和記念式典」に参列した。

今年の式典は「口ナ禍以前と同じ規模で実施されたこともあり、多くの参列者の姿があった。

気温は午前中から30度を超え、平和記念公園の給水所に列ができるほどの猛暑日となったこの日、広島は原子爆弾が投下されたあの日から、78回目の夏を迎えた。

式典では、広島県の子ども代表による「平和への誓い」が宣言され、「平和への誓い」はパンフレットで文章を見ることが、実際に姿を見て、声を聞くのでは伝わり方が全く違う。本当に凄かった」と派遣団のメンバーは話した。

平和記念公園碑めぐり・被爆体験談

いままでのこと これからのこと

式典終了後は「広島県高等学校原爆被爆教職員会」の佐伯克彦さん、佐伯志津代さんを講師に迎え、平和記念公園内の碑めぐりを行った。

「被爆したアオギリ」「平和の鐘」「韓国人原爆犠牲者慰霊碑」「原爆の子の像」など、多くの反核・平和のシンボルについての説明を受け、当時の状況をさらに学んだ派遣団。

碑めぐりの後に行なった被爆体験談では、戦争・原爆の恐ろしさを再確認し、佐伯さんへ次のように質問した。

「戦争していた相手に対し、どんな想いを持っていましたか」と真剣な眼差しで質問する派遣団の加藤さん。「相手はチヨコなんかの食べ物してくれる。それは嬉しいが、酷いことをした国でもある。簡単には言い表せない複雑な気持ちだった」と佐伯さんは答えた。

8月7日、派遣団は安平町へ帰町。後日行われた事後研修で佐伯さんにお礼の手紙を次のように綴っている。

「命を大切にしなければと思った、そしてその命を大切にすることが、平和へと繋がるのだと学ぶことができました。」

(派遣団礼文より抜粋)



「平和の鐘」を鳴らす派遣団と見守る佐伯克彦さん

この3日間で多くの学びを得た派遣団は、各学校で派遣内容の発表、プレゼンテーションを行った。
伝え続けなくてはならない「いままでのこと、これからのこと」について。
※次ページでは、自主研修の様子、派遣団の想いなどを掲載しています。

【派遣団児童生徒紹介】

追分高等学校 1年

山崎 礼愛
(やまざき れいな)

早来学園 9年

木村 陽杜
(きむら はると)

追分中学校 3年

上岡 永昇
(うえおか えいしょう)

早来学園 6年

加藤 春紀
(かとう はるき)

追分小学校 6年

江口 知志
(えぐち ともき)